

第10話（6頁） 木馬

ペーチャとミーシャが木馬をもっていました。

木馬がどちらの物かで口げんかになりました。

ふたりは木馬のひっぱりっこをはじめました。

「ぼくによこせ、ぼくの木馬だ。」

「だめ だめ、そっちこそぼくによこせ。木馬はぼくのだ。」

おかあさんがやってきて、木馬を取り上げてしまい、木馬はどちらのものでもなくなってしまいました。

「ペーチャとミーシャはきっと兄弟だ。二人で木馬の取り合いをしていたら、お母さんが取り上げてしまったというから、お母さんは裁定者の立場で登場している。」

「二人は何歳ぐらいで、いくつぐらい離れていたのかな。」

「取り上げられて、二人は争うんじゃないかとすぐに後悔しただろうか。」

「お互いにほしいものを一人占めしようとして争ったら、元も子もなくなってしまう、と。イソップ物語風ならそういう教訓につなげるんだろうが…。」

「おかあさんはあとで、取り上げた木馬を返したのか。返す時に二人に何と話したのか。しばらくは、取り上げっぱなしにしたのか。この先を子どもたちに考えてもらおうと、いろいろと意見が出てくる気がするよ。」